

独立行政法人 福祉医療機構（子育て支援基金）助成

ひとりで悩まないで！子育て支援 「ママパパネット」事業

インターネット De フェスティバル
mamapapa ヴィレッジ in みやざき

実施報告書



主催：特定非営利活動法人 子ども NPO ・ 子ども劇場全国センター

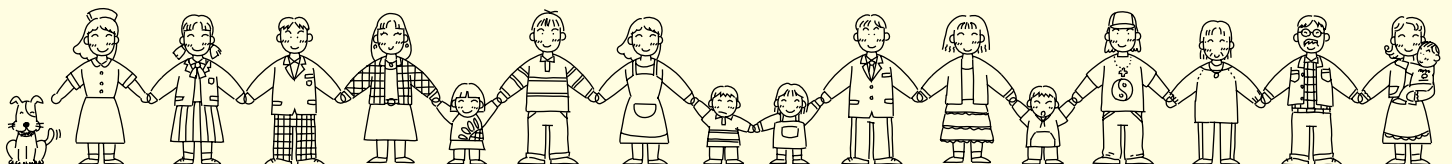
協力：特定非営利活動法人 みやざき子ども文化センター

目 次

はじめに	1
地域社会に生まれた新たな可能性	2
ひとりで悩まないで!子育て支援「ママパパネット」事業の目的	3
事業実施 Process	4
事業実施体制	6
S I T E 概要	8
コンピューターのモニターに見える mamapapa ヴィレッジ	10
ルームマネージャー研修【1～5】「ネットコモンズの運用・実習」	12
応援隊研修【1～3】「子育て支援とは? 自己尊重トレーニング」	14
応援隊研修【4～5】「宮崎の子育て支援の状況から」「ママ パパに共感すること」	16
応援隊研修【6～7】「インターネットでママパパ支援をすること」	22
実施 mamapapa ヴィレッジ	24
参考資料	32

本事業は、独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）助成 ひとりで悩まないで!子育て支援「ママパパネット」事業ですが、その実施にあたっては、通称「mamapapa ヴィレッジ in みやざき」を使用いたしました。

また、各部屋の担当者「ファシリテーター」は、通称「ルームマネージャー」、「受け手」スタッフは、通称「応援隊」を使用いたしました。



はじめに

この事業への“期待”を一言で言えば、距離と時間と空間を超えた新たな「コミュニティ」の創造にあります。

私たちはここ10数年、子どもを育てる場として、地域コミュニティでの豊かな学びの場を失ってしまい、はじめてその代償の大きさに気づきました。いま、日本の多くの人々が、地域の再生を望み課題として掲げるのも、その欠落を埋めなければならないことを多くの人々が痛切に感じているからでしょう。

いま、次世代育成支援対策推進法により、各地で、子育ての支援体制の機運が感じられますが、そうした状況にあっても、やはり、地域にでてくることのできない親たちも多くいることを見逃すわけにはいきません。

こうした環境の中、インターネットでどのような子育て支援ができるのか、そこに挑戦したのが本事業です。この事業を終えた今、答えは、インターネットもまた「人」の手に依るものであるということです。そして、インターネットでの子育て支援は、現実のコミュニティ形成を促進するツールとして、今まで現実の地域では創ることのできなかった関係性を育む十分な手応えをつかむことができました、と言って良いでしょう。

インターネットを通じて「一緒に子育てをしよう」という呼びかけに235人の応募があり、36日間で10万回を超えるクリック数を記録しました。掲示板と、チャットに様々な書き込みがされ、やがて東京と宮崎を結ぶバーチャルな空間に、人々のコミュニティが生まれていく様子が伺えました。それぞれのルームに、関わる人々の気配が生まれ、徐々に悩みや相談が投げかけられるようになり、そこにまた、共感とさまざまな智慧が手渡されました。そのための人の体制、システム要件など、「インターネット上での子育て支援」を構築する重要なアウトラインも描くことができました。

まだまだ課題の多いこの事業ですが、この報告書が、今後インターネットの子育て支援を発展させていくための一つのステップとなることを願っています。

最後になりましたが、この実験的な事業に理解を示してくださった、独立行政法人福祉医療機構(子育て支援基金)に深く感謝を申し上げます。また、実施にあたり地域の素晴らしい人材とリソースを全面的に提供してくださった、特定非営利活動法人みやぎ子ども文化センターのみなさま、おしまない力を貸してくださった関係者のみなさまに、心より御礼を申し上げます。

2005年3月

特定非営利活動法人子どもNPO・子ども劇場全国センター

地域社会に生まれた新たな可能性

「ネットで子育て支援？」子育てサポートサイトを初めて取り組むことになり、どのような形になるのか想像もつかない事業を実験的に実施することになった。

子どもの成長について、これといったお手本はなくつい周りと比べて不安になる。地域や家族のありようが変化した今、たくさんの選択肢の中から自分の居場所を見つけ、ゆったりした関係の中で子どもを育てる環境が大事である。

人ととのつきあいが苦手な親や、孤立化した親に子育てをサポートしてくれる人たちをどのようにつないでいくのか。インターネット De フェスティバル mamapapa ヴィレッジ in みやぎきをネット上に作る実験は、これからの子育てにひとつの可能性を見出すきっかけになるのではないかと期待しスタートさせた。

2001年に開設し、ボランティアの養成講座を継続しながら子どもたちの声を聴く事業「チャイルドライン」の経験も今回の「ママパパネット」を進めることになった理由のひとつである。また、2003年度に取り組んだ子育て応援ダイヤル「ママパパライン」の事業も参考になっている。気持ちをまるごと受け入れる、そして共感する、指導はしないなどチャイルドラインやママパパラインで学んだことは、その人自身の持っている力を信じることである。

今回の事業でも、子育て情報の共有化や安心してやりとりができるように「ママパパ応援隊」というサポート体制をしっかりと作った。「一人の子どもを育てるには村中の人が必要」と言われるように、ネットの中にもさまざまな年齢、性別、職業など多彩な人たちの関わりをつくり、「ひとりじゃないよ」「なんでも相談して」「いつでも見てるよ」という村を作った。応援隊として、子育て真っ最中の親たちも普段の生活の中で、これまでは子育てサポートはできなかったがネット上でのサポートを経験することになった。

mamapapa ヴィレッジ in みやぎきは、利用者には登録制をとり、個人の安全を第一に考えたシステムでもあった。文字の上だけで気持ちに寄り添うことができるのか、緊急の場合をどう想定するのかなど心配もされたが、応援隊や登録者の協力で非常に楽しい活気のあるママパパネットになった。普段、あまり子育てにはなかなか関われない父親の参加も多く、落ち着いた会話にはなにかしら「ほっと」させられた。ネットを通じて気心がわかり、外でのサークル活動に繋がるという場面に出会い、これからの新しい輪づくりのひとつであることが分かった。

平成16年度中に企業や自治体など次世代育成支援行動計画が発表され、施策に対して具体的な数値目標などが示されている。子どもの育ちや子育てがすべての人にとって希望となるように、地域でそれぞれに考えていくシステムが求められている。インターネット上を子育て支援の場として、一ヶ月という短い期間ではあったが特定非営利活動法人みやぎき子ども文化センターとして貴重な経験をさせていただいたことを感謝し、これからの支援にぜひ繋げられるように事業を作っていくと考えています。

実施にあたりご協力頂きました、応援隊の方々をはじめ、宮崎県、宮崎市、関係者のみなさまに、厚く御礼を申し上げます。

mamapapa ヴィレッジ運営委員長 片野坂千鶴子

(特定非営利活動法人 みやぎき子ども文化センター代表理事)

ひとりで悩まないで！子育て支援 「ママパパネット」事業の目的

本事業では、子育ての孤立化を防ぐ一つ的手段として、ネット上で子育て情報を共有し、安心してやり取りができる、会員制のプラットフォームを創出します。従来のサイトと異なる点は、IDを発行することで良質な情報を共有しようという意思を意識化して、良質なコミュニティを創造していく点、また、今回養成した受け手スタッフ（応援隊）がすべてのルームに常駐し、ネット上でのコミュニティの支援をしていきます。

さらに、地域で子育て支援をすすめるリーダーに対しても働きかけ、本事業の実施を通じ、ネットワークの掘り起こしと、充実を図ります。

この事業を通して、現在の子育て中の親が抱えている課題に対し、これまで培ってきた子育て支援の知識をIT特有の機能と融合させる実験的なとり組みとし、その効果を検証し、新たな子育て支援の政策提起をめざします。

事業目的

- ・ 子育て中の母親・父親を（主に乳幼児を育てている親）対象に、子育て支援を目的とする。
- ・ インターネットを活用し、その中で地域の多様な人材によるコミュニティを形成する。
- ・ 情報の交流・気持ちを共感できる場を提供し、相談・仲間づくりを図る。
- ・ 地域に出てくることのできない状態の親にも、アプローチしやすい場をつくる。
- ・ サイト上にファシリテーターを配置し、参加者との関係を深めることで、地域内の支援グループ・自助グループに日常的にアクセスできるような情報提供とエンパワーをする。

事業内容

- サイトの各部屋のファシリテーター（通称；ルームマネージャー）の養成研修
インターネットのサイト運営やネットコモンズ利用のスキルを身につける。
- 受け手（通称；応援隊）スタッフの養成研修の実施
受け手としての基本的な心構えとスキル、子育て支援の現状、インターネットでママパパ支援を行うということ学ぶ。
- 子育て・子育て支援サイト「ママパパネット」（通称；mamapapa ヴィレッジ in みやざき）の開設
モデル事業として、テスト期間を経て、サイトを1ヵ月開設し、運営する。